

とやま型地域共生福祉の推進

～住み慣れた地域での生活を目指して～



～第9回「地域共生ホーム全国セミナー」in とやま

令和元年11月24日(日)



はじめに

高齢者人口割合の推移

区 分	2005(H17)	2015(H27)	2025
日本の総人口(百万人)	127.8	127.1	120.7
65歳以上人口 (対総人口比)	25.7 (20.1%)	33.5 (26.6%)	36.6 (30.3%)
富山県の総人口(千人)	1,111	1,066	986
65歳以上人口 (対総人口比)	258 (23.2%)	323 (30.5%)	332 (33.6%)

各年10月1日現在(2005及び2015は「国勢調査」、2025は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」など)

身体障害者手帳所持者数の状況

単位: 人

区 分	2006(H18)	2018(H30)
65歳以上	33,814	36,961
18～64歳	13,812	9,641
0～17歳	764	606

身体障害者手帳
所持者のうち、
65歳以上の高齢
者の割合

(2006) 69.9%
(2018) 78.3%

県政世論調査(2017)の結果

将来介護が必要になった場合の希望

住み慣れた地域での生活を希望.....67.7%
うち自宅での生活を希望.....54.2%

そのため、6割以上の方が富山型デイなどの地域で
サービスを受けられる場の整備が必要と回答

元気とやま創造計画(2018年3月策定)

基本政策: 活力、未来、安心 重要政策: 人づくり

安心とやま

安心8「地域包括ケアシステムの構築と 地域共生社会の形成」

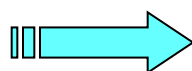
高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活できる
地域包括ケアシステムが構築されている

地域住民誰もが、役割を持ち、地域ぐるみで支え
合いながら、自分らしく活躍できる地域共生社会が
形成されている

住み慣れた地域での生活の実現に向けて

これまで

【施設整備を推進】



今後

【地域密着型サービスを充実】

○特別養護老人ホーム等の施設整備を推進 介護保険4施設入所定員数

特養、老健、療養型、介護医療院

(2018.4～)

<1999.3> 8,797人 → <2019.3> 12,204人 (38.7%増)

高齢者人口10万人 4,039人(2012.10) → 3,650人(2017.10)

当たり定員数

全国3位

全国10位

施設整備と併せて在宅サービスの充実

※高齢者人口の伸び

<1999.10> 227,761人 → <2017.10> 330,450人 (45.1%増)

○富山型デイ、訪問看護等の在宅サービス、地域密着型を整備

小規模多機能型居宅介護利用者(2008) 305人/月 → (2018) 1,705人/月
訪問看護(介護保険のみ)利用者(2008) 1,733人/月 → (2018) 3,299人/月

○施設と在宅のバランスのとれた整備を推進

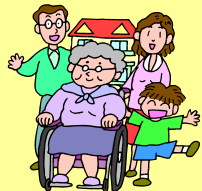
※住み慣れた地域での生活の継続や復帰を支援

※自宅での介護が困難で重度者の優先入所を推進

○地域住民によるケアネット活動の推進

●富山型デイサービス施設設置数

年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも利用できる施設



2003(H15)	2008(H20)	2018(H30)	2021(目標)
27か所	71か所	130か所	200か所

全ての小学校区での整備を目指す

●小規模多機能型居宅介護事業所数・受給者数

「通い」を中心として、希望や状況に応じて、「訪問」や「泊まり」を組合わせたサービスを提供する施設(H18創設)



	2006(H18)	2008(H20)	2018(H30)	2020(目標)
事業所数	3か所	29か所	84か所	140か所
受給者数 (月平均)	13人	305人	1,705人	—

高齢者の日常生活圏域(中学校区)ごとに概ね2箇所の設置を目指す

●ケアネット活動取組み地区数

住民がチームを組んで、支援が必要な方へ、見守りや買い物代行などを行う



2003(H15)	2008(H20)	2018(H30)	2021(目標)
40地区	177地区	265地区	306地区

全ての地区社会福祉協議会(306地区)での実施を目指す

●訪問看護ステーション数(人口10万人当たり)・受給者数



※介護保険のみ

	2003(H15)	2008(H20)	2018(H30)	2020(目標)
事業所数	2.86か所	3.16か所	6.72か所	6.9か所
受給者数 (月平均)	1,724人	1,733人	3,299人	—

在宅医療の充実に向け、更なる設置を目指す

富山型デイサービスについて

いままで

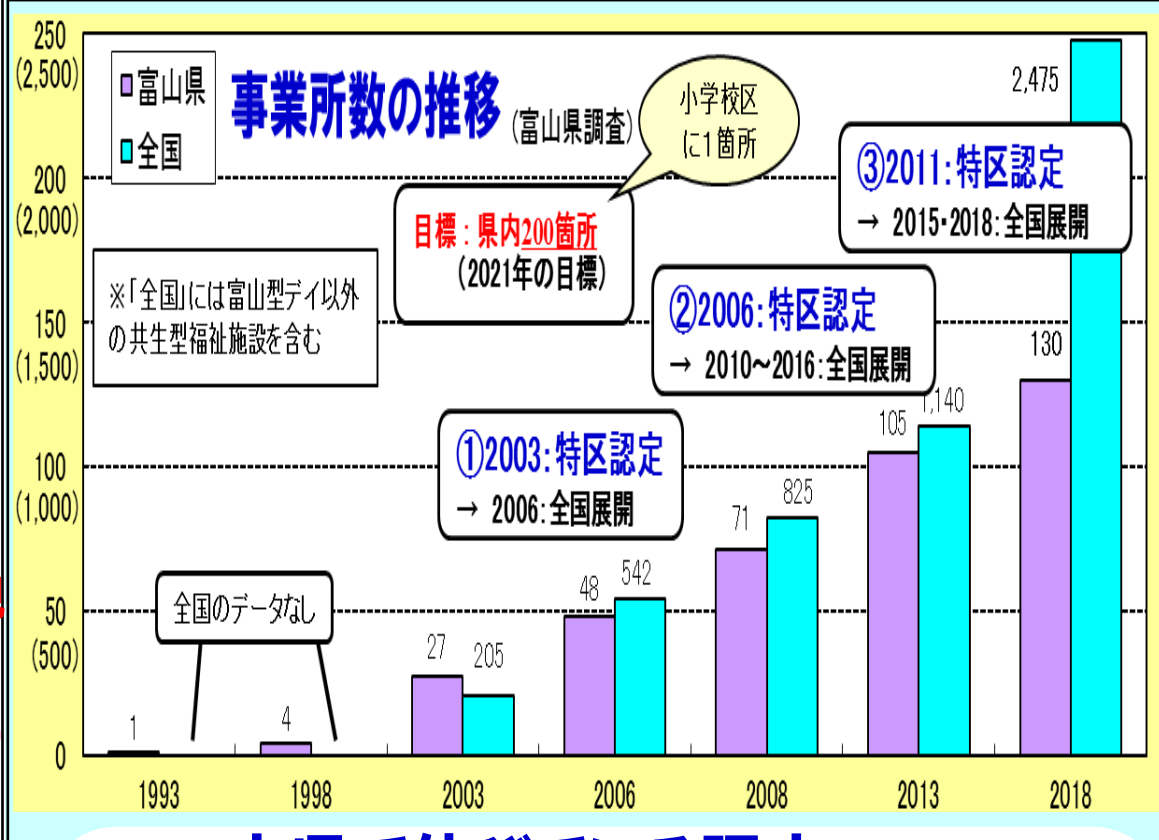
- 対象者を限定
- 集団ケア
- 住み慣れた地域から離れる

これまでの福祉サービスは
高齢者...高齢者介護施設
障害者...障害者施設
児童...保育所
等のタテ割り
⇒「地域共生」という視点からは課題がある

これから

「誰もが地域でともに暮らす」(共生)を重視

- 家族のように過ごせる第二の我が家
- 近所の家に遊びに行く感覚
- いつでも誰でも受け入れ可能



本県で伸びている理由

- 富山型デイ発祥の地(: 1993年「このゆびと一まれ」開所)
- 県民の共生への高い意識
- 行政の支援 (特区指定、ソフト・ハード面での補助)



2015.8 生みの親、惣万さんが「フローレンス・ナイチンゲール記章」受章!

小規模 : 利用定員は10~20人程度で、家庭的な雰囲気

多機能 : 障害者や子どもを含め、誰でも受け入れ対応

地域密着 : 身近な住宅地に立地し地域との交流が多い

介護人材の効率的活用

職員配置数(通所サービスで介護、障害各10名利用の場合)

- ・指定事業所を各々設置(介護3名+障害3名)=**6名**
- ・富山型デイ(介護+障害)=**4名**

「富山型デイサービス」発展の経緯

年度	発展の経緯	富山県の支援策
1993	「このゆびと一まれ」開所 富山県で初の民間デイサービス	市町村へ県1/2補助(末端で県1/2,市町村1/2)
1999	「このゆびと一まれ」富山県第1号のNPO法人に	在宅障害児(者)デイケア事業(1996～2013) 富山県民間デイサービス育成事業(1997～1999)
2000	介護保険制度が始まる	この頃、誰でも受け入れる民間デイサービスと行政の柔軟な補助金の出し方を合わせて「富山型」と呼ばれるようになる
2003	①富山型デイサービス推進特区の指定(県、3市2町) 全国展開 特区の指定により、指定通所介護事業所で知的障害児(者)の受入が特区内で可能に	富山型デイサービス起業家育成講座の開催(2002～) 福祉車両設置推進事業(2004～) 富山型デイの施設整備や研修を支援(2005～)
2006	富山型デイサービス推進特区が全国展開 ②富山型福祉サービス推進特区の指定(県、2市1町)	
2010	富山型福祉サービス推進特区の一部が全国展開	・小規模多機能型居宅介護事業所で障害児(者)の通所サービス、宿泊サービスの利用が特区内で可能に
2011	富山型福祉サービス推進特区の一部が全国展開 ③とやま地域共生型福祉推進特区の指定 総合特区	・通所サービスの生活介護について ・宿泊サービスについて
2013	富山型福祉サービス推進特区の一部が全国展開	・児童発達支援、放課後等デイサービスについて
2015	とやま地域共生型福祉推進特区の一部が全国展開	・施設外就労の最低人数について
2016	富山型福祉サービス推進特区の一部が全国展開	・通所サービスの自立訓練について
2017	④富山型デイサービスをモデルとした共生型サービスが創設	・施設外就労可能な人数について
2018	とやま地域共生型福祉推進特区の一部が全国展開 共生型サービスが開始	・送迎加算等の各種加算が取得可 ・専門資格職の配置等による加算が新設

富山型デイサービス推進特区(2003.11月認定)の全国展開

これまで

特区外	指定通所介護事業所	特区内	指定通所介護事業所
高齢者 身体 障害者	○	高齢者 身体 障害者	○
知的 障害者	×	知的 障害者	○
障害児	×	障害児	○

2006
.10月
から

2006.10月以降

全国	指定通所介護事業所
高齢者 身体 障害者	○
知的 障害者	○
障害児	○

富山型福祉サービス推進特区(2006.7月認定)の全国展開

これまで

特区外	指定小規模多機能型居宅介護事業所	特区内	指定小規模多機能型居宅介護事業所
生活介護	×	生活介護	○
宿泊サービス	×	宿泊サービス	○
児童デイ	×	児童デイ	○
自立訓練	×	自立訓練	○

2010.6月以降順次全国展開

全国	指定小規模多機能型居宅介護事業所
生活介護	○ (2010.6~)
宿泊サービス	○ (2011.6~)
児童発達支援 放課後等デイ	○ (2013.10~)
自立訓練	○ (2016.4~)

富山型デイサービスへの県・市町村独自の支援(2019年度)

ハード

- 住宅活用施設整備(県1/3、市町村1/3)
 - ①住宅等改修 1箇所600万円
 - ②機能向上(改修) 1箇所600万円
 - ③機能向上(除雪機、AED等) 1箇所60万円

2012年より、富山型デイの普及促進のため、高齢者のデイサービス等から富山型デイへの転換のための改修についても対象に

- 施設整備(新築)(県1/3、市町村1/3)
1箇所1,200万円
- 福祉車両の設置
1台50万円

他の7県でも
ハードの一部を支援
(2019年度)

ソフト

- 地域共生ホーム全国セミナー開催支援
新 啓発用DVD、冊子の作成・配布(2019新規)
(配布先は 全国の介護福祉士養成学校等)

DVDを全国395養成学校、厚労省・都道府県、県内小中高校等に配布

- 起業家育成講座(2002年度~ 累計849人)
*近年は半数以上が県外の受講生
北海道~鹿児島県まで(県外累計341人)
- 職員研修(初級編、中級編、中間管理職編)

「とやま地域共生型福祉推進特区」(2011.12 指定)

目標

赤ちゃんからお年寄りまで、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で生活が継続できる「共生社会」の実現

実現した主な特例措置(2012.7月実現)

①福祉的就労の規模要件の緩和

福祉的就労:雇用契約によらず、助言・指導を受けながら、掃除、洗濯、配膳等の補助的な役割を果たす就労

- ・複数の富山型デイサービス事業所を施設外就労先としてグループ化。グループ全体で20人程度を確保すれば、障害者自立支援給付の対象に。

- ・2013年4月より規制緩和を活用した**就労継続支援B型事業所**「はたらくわ」が事業開始(県内1カ所)

②認知症高齢者と障害者が共に生活できるグループホームの整備

- ・認知症高齢者グループホームと障害者グループホームの一体的な整備の場合、共用設備(玄関、風呂、トイレ、食堂等)の兼用が可能。

- ・国の見解を受けて市町村条例の改正を推進(4市4町1村で改正済)(県内6カ所)

③通所介護事業所(デイサービス)での宿泊サービスの要件緩和

- ・通所介護事業所の静養室をショートステイの居室とみなし、緊急の宿泊が介護保険給付(又は障害者自立支援給付)の対象に。

- ・国の見解を受けて県及び中核市の条例を改正(2012年)
- ・国が介護保険外での宿泊サービスの届出を整備(2016年)→(県内14カ所)

富山型デイサービスの安定的な運営について

これまでの課題

◎富山型デイサービスの報酬は低く、経営が厳しい状況

- 〈理由〉・障害支援区分に関わらず、基本報酬は一定
・障害福祉サービスの各種加算が算定できない

送迎加算、欠席時対応加算、初期加算などを算定できない

2015報酬改定

介護保険の指定事業所

高齢者デイサービス事業所
〈報酬額268千円/日〉

障害の指定事業所

障害福祉サービス事業所
〈報酬額224千円/日〉

介護保険の指定事業所
障害の基準該当事業所

富山型デイサービス事業所
〈報酬額203千円/日〉

※算定モデル 各20人定員(富山型は高齢者10人、障害者10人)



塩崎厚生労働大臣(当時)に
要望する惣万さん(2015.10.15)

知事から塩崎厚生労働大臣(当時)へ要望(2015.10.15)

新たに

「共生型サービス」が創設(2017.5.26 「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が成立)

富山型デイサービスが将来にわたり安定的に運営ができるような報酬体系を要望

報酬や指定基準は2018年度の報酬改定から制度化

2018報酬改定

高齢者

デイサービス事業所
〈報酬額273千円/日〉
【+5千円/日】

障害福祉

サービス事業所
〈報酬額229千円/日〉
【+5千円/日】

障害福祉サービス事業所と同程度の報酬に

共生型
サービス事業所
〈報酬額229千円/日〉
【+26千円/日】

送迎加算等の各種加算を算定

全国に広がる“とやま型地域共生福祉”

富山型デイサービス

高齢者、障害者、子どもなどを大家族のように一体的にケア

サービス面

- ＜高齢者＞ 子どもと触れ合うことで、**日常生活の改善や会話が促進する**
- ＜障害者＞ 居場所ができることで、自分の役割を見出し、**自立へとつながる**
- ＜子ども＞ **他人への思いやりや優しさが身につく**

人材面

- ・高齢者と障害児者を同一の事業所でケアすることで、不足している**介護人材を効率的に活用**できる
- ・富山型デイで育った障害児が、「**大きくなったらここで働く**」という選択肢ができる

職員配置数（通所サービスで介護、障害それぞれ10名利用の場合）

- ・指定事業所を各々設置(介護3名＋障害3名)= **6名**
- ・富山型デイ(介護＋障害)= **4名**

設備面

- ・高齢者と障害児者の**それぞれの建物を別に整備する必要がない**
- ・民家の改修で運営でき、**施設設備の経費が少なく、空家対策にもなる**

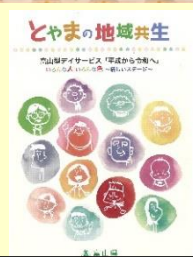
共生型サービスが開始(2018.4～)

- ・専門資格職(サービス管理責任者、保育士等)の配置による加算が新設
- ・送迎加算等の各種加算が取得可

2019.7.23 全国知事会議 in 富山



啓発用DVD



啓発用冊子

全国知事会への要望等 (2018.7.26、2018.9.5、2019.7.23)

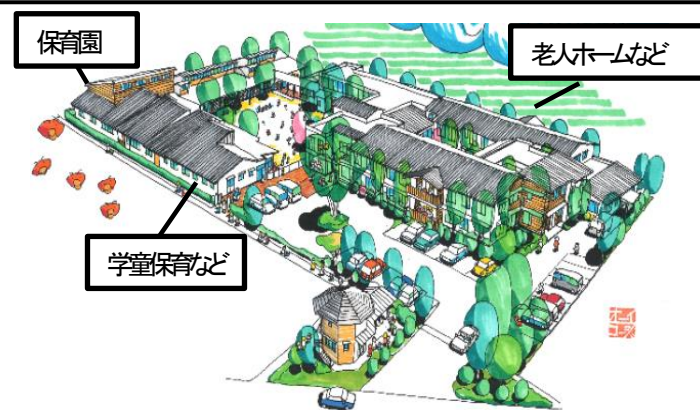
- ・富山型デイサービスの魅力・長所をアピール
- ・全国の知事に普及への支援を要請
 - 特に7月の富山開催では、啓発用DVDの放映や冊子の配布でPR
 - 知事会議後、「このゆびと一まれ」に、
広島県庁や茨城県庁、その他18市区から視察に来県

教育も取り入れた「とやま型地域共生」のかたち

「あしたねの森」(社会福祉法人 アルペン会)

多世代交流型施設【主な特色】

- ①同一敷地内に高齢者施設と保育園が併設し、日常的に交流。
- ②建物の構造は、子どもたちが高齢者施設でも楽しめ、高齢者にとっても、日常生活の中で子どもたちを身近に感じられる。
- ③放課後児童クラブ(学童保育)と放課後等デイサービスが併設し、障害のない児童と障害のある児童が双方を行き来。



天気の良い日は園児と一緒に散歩へ



心の力・学ぶ力・体の力を育てる

【高齢者棟】

- ①地域密着型特別養護老人ホーム〔29床〕
- ②ショートステイ〔10床〕
- ③デイサービス〔定員70名〕

【保育棟】

- ①幼保連携型認定こども園(ガンバ村保育園)〔定員135名〕

【学童棟】

- ①放課後児童クラブ〔定員60名〕
- ②放課後等デイサービス〔定員10名〕(対象:障害のある児童)



特養やデイサービスに子どもたちが日常的にやってくる

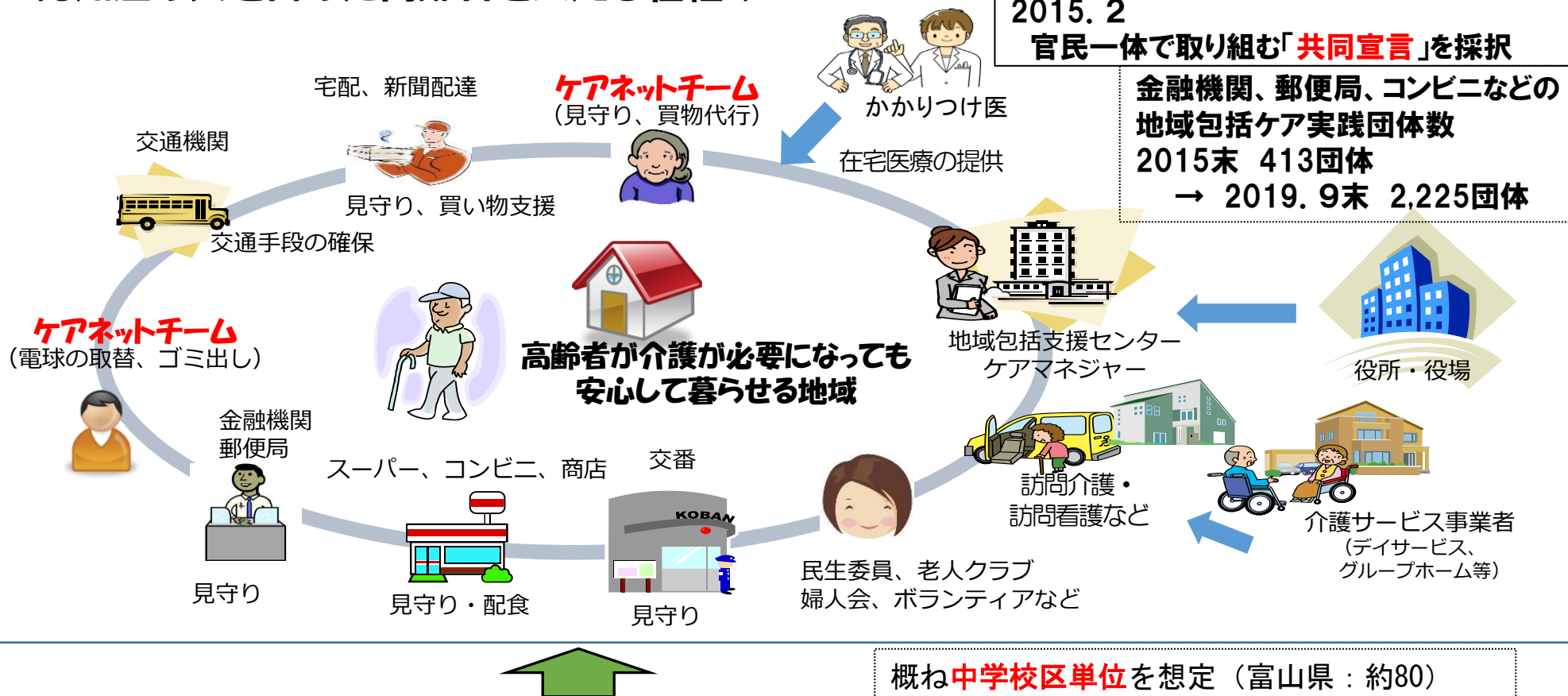


全国知事会有志の視察
(全国知事会議in富山(2019.7.22))

高齢者を社会全体で支える地域包括ケアシステム

○介護サービスだけでなく、県単独事業で**ケアネット**など地域の自助・互助を奨励

地域では多様な主体、機関が連携して
認知症の人を含めた高齢者を支える仕組み



団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、**医療・介護・介護予防・
住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを構築**

ふれあいコミュニティ・ケアネット21

ケアネット事業

類似事業(県単独補助)を実施しているのは18県あるが、見守りのみが多い

ケアネット実施地区数・チーム数の推移

要支援者に適した個別支援サービスの提供

・ケアネットチームの編成



ケアネット活動コーディネーター<市町村社協>

・保健・医療・福祉のコーディネート ・サービスプログラムの提供

ケアネットチーム

地域の要支援者

要介護高齢者とその家族
ひとり暮らし高齢者
在宅障害者、精神障害者
子育て中の父親・母親 等

保健師

看護師

隣人
友人

老人クラブ員

ホーム
ヘルパー

民生委員

ボランティア

【本県の支援概要】2019年度

①ケアネットグループ(地区)への支援

※1地区30万円(県1/6～1/3、市町村1/2程度)

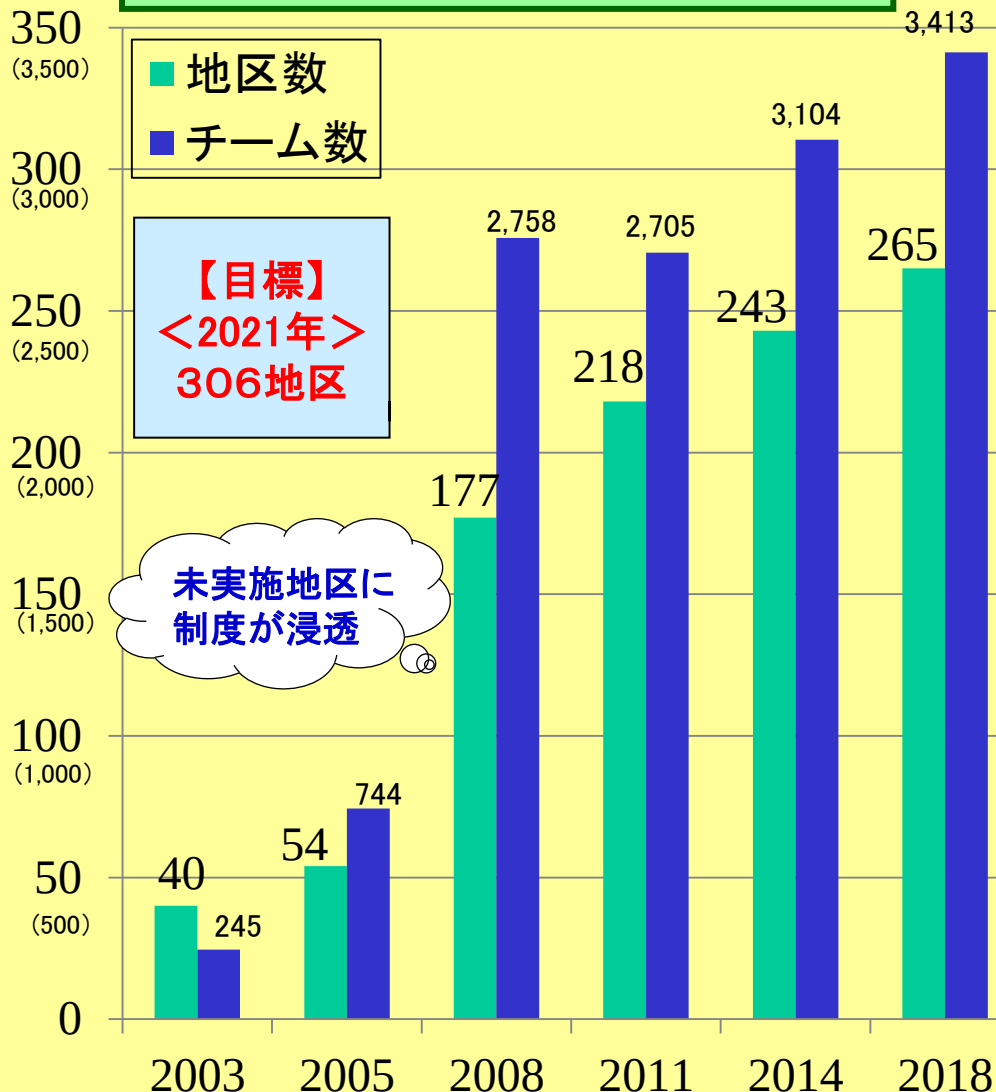
・地区:チームの育成、ふれあいサロン開催、情報誌の発行等

・チーム:見守り、声掛け、話し相手、ゴミ出し、

買物代行等の個別支援等

②ケアネットセンター(市町村社協)の運営助成

※ 地区数により上限500万円(県1/2、市町村1/2)



【目標】
＜2021年＞
306地区

未実施地区に
制度が浸透

地区＝小地域(概ね旧小学校区) 住民に身近な日常生活圏

チーム＝支援の必要な人ごとに対応するため3人1組で編成

在宅医療の推進

在宅医療に取り組む多職種連携への支援

○開業医グループの設立を支援

2009～開業医グループ設立に係る財政的支援

⇒グループ数 〈2008〉7 → 〈2018〉15

⇒県内全参加医師数 〈2008〉28人 → 〈2018〉204人

○開業医グループの活動を支援

2010～在宅医療支援センターの設置、運営支援

⇒〈2008〉0ヶ所 → 〈2012〉4ヶ所 → 〈2018〉10ヶ所

○多職種の連携体制整備の促進

I C Tを活用した多職種による情報共有の推進

医師、訪問看護師、介護関係者の連携研修への支援 等

【令和元年度の主な取組み】

○ 富山県在宅医療支援センターの運営 (コーディネーター配置)

○ 郡市医師会の在宅医療推進の取組みを支援

○ 医療・介護情報の共有・活用のICTシステム整備の支援

○ 訪問看護ステーション整備への支援

新設、大規模化等のための施設や設備の整備を支援

○ 訪問看護の働き方改革や業務改善の推進

テレワーク型訪問看護、トライアル雇用、ICTの活用推進

○ 訪問看護ステーションと病院との連携を強化

新「訪問看護サポートステーション」を医療圏毎(5箇所)に 設置し、地域の小規模ステーションを支援

県在宅医療支援センター(2015・4月開所式)



【本県の現状】

単位：人口10万人あたり

■本県の在宅医療の状況	富山県	全国平均
訪問診療を実施している診療所・ 病院数 (2017)	22.5 (238)	18.0
訪問看護ステーション数 (2019)	6.9 (72)	8.8

全国順位 47位(2007) → 36位(2019)
訪問NS数 219人(2008) → 427人(2018)

これまでの看護教育充実のための取組み

富山大学看護学科 定員増への支援

2010年度入学生から
60→80名

研究棟増築に補助
3.7億円



必ずしも県内就職に
つながらない

認定看護師の 育成支援

認定看護師教育
課程の運営支援や
研修支援

■認定看護師数の推移

年度	認定 看護師数	内訳				
		緩和ケア	摂食嚥下	感染管理	認知症	その他
2005	4	1	0	1	0	2
2014	160	19	8	23	6	104
2016	222	46	11	33	11	121
2018	271	57	25	37	19	133

全国1位 (人口10万対)

富山県立大学看護学部開設

【検討委員会の提言(2015.8)】

- ・アセスメント能力(看護の計画立案、状態把握など)の高い看護師の確保
- ・リーダーや管理的役割を担う人材の確保

○県内公的病院を中心に、大卒看護職員の採用ニーズがさらに高まる。

大卒看護職員の採用計画 単位：人

区分	2014年	2020年	増減
合計	1,058	1,484	+426
病院	760	1,101	+341
公的	716	1,043	+327
その他	298	383	+ 85

○県外の看護大学への進学により、毎年約70人程度が流出し、拡大傾向にある。

過去5年平均

学生の県外流出

2010:74人、'11:71人、'12:68人、'13:57人、'14:81人

(参考 2015:90人、2016:91人、2017:120人)

より質の高い看護職員の養成に加え、本県の看護を担う人材をしっかりと確保するためにも、県立の4年制看護大学を設置すべき

国公立大学の看護学部では
全国トップ

～2019年度入学選抜～

県立大学看護学部を2019年4月開設



看護学部専用の富山キャンパス「教育棟」



選抜者区分		募集人員	志願者数	志願倍率
推薦入試(県内生対象)		48名	122名	2.5倍
一般入試	前期日程	62名	417名	6.7倍
	後期日程	10名	259名	25.9倍
計		120名	798名	6.7倍

全国40都道府県から

女性が活躍できる富山県

女性(15~64歳)の就業率 2015

富山県 72.0% **全国3位**
 全国平均 64.9%

若者(15~34歳)の正規雇用率 2017

富山県 77.8% **全国1位**
 全国平均 67.1%

三世代同居率 2015

富山県 13.2% **全国5位**
 全国平均 5.7%

女性の正社員比率 2017

富山県 50.1% **全国3位**
 全国平均 42.0%

保育所入所率 2017

富山県 73.1% **全国2位**
 全国平均 44.0%

共働き率 2015

富山県 55.9% **全国4位**
 全国平均 47.6%

働き方改革の推進

とやま働き方改革行動宣言

経済・産業団体、労働団体、行政等からなる「とやま県民活躍・働き方改革推進会議(H31.4.9)」で、具体的な行動項目を宣言



5項目(長時間労働の縮減や年次有給休暇の取得促進など)

(新)イクボスネットワークの強化

イクボスシンポジウム」の開催
 新聞を活用したPRキャンペーン

H29.7.25設立
 加盟数:150団体
 (R1.8末現在)



(新)中小企業の働き方改革サポート事業

業界や業種(宿泊業・介護等)ごとの研修会等へ講師派遣や合同コンサルティング

(新)働き方改革・女性活躍応援WEBサイトの開設

県内企業の取組状況、先進事例の紹介、支援情報等の一元的な発信等を実施

女性活躍の推進

(新)女性就業支援センター(マザーズジョブとやま)の開設

潜在的な女性求職者の開拓、子育て中のママ向けの仕事の切り出し、マッチング等を支援

富山駅から徒歩8分
 富岩運河環水公園隣接
 サンフォルテ2階

(拡)一般事業主行動計画(女活法)の策定支援

社会保険労務士による企業訪問、企業向け研修会



キッズスペースを併設

(拡)女性のキャリアデザイン応援事業

女性のライフイベントに応じたキャリア形成を支援(大学生向け、若手女性社員向け等)

〇煌めく女性リーダー塾

(H25~H30 卒塾生272人)

(新)煌めく女性リーダー出前講座

(新)家族でハッピー!家事・育児分担キャンペーン



富山県で活躍する女性たち（紹介）

介護従事者の女性割合
富山県 78.3% 全国1位
全国平均 72.0%

（公財）介護労働安定センター
「2018年度介護労働実態調査」より



2015年. 8月
富山型デイの生みの親、惣万さんが
「フローレンス・ナイチンゲール記章」
を受章

起業未来塾修了生

医療・福祉



野尻 史佳子さん
（8期生 2012年修了）
元富山赤十字病院看護師

- ・（株）桑の里代表取締役
- ・看護師の経験を活かし、富山型デイサービスを開設（富山市）

医療・福祉



酒井 照枝さん
（11期生 2015年修了）
元中央病院 看護師長

- ・プラント・フォーム助産院 院長
- ・看護師の経験を活かし、産後のデイケアサービスを開設（県内初）（上市町）

webマガジン



松田 悠さん
（13期生 2017年修了）

- ・TENKIN NOTE（転勤ノオト）代表
- ・移住者に寄り添い、「転勤族ママ交流会」などを主催

観光未来創造塾修了生

観光・宿泊



原井 紗友里さん
（5期生 2015年修了）

- ・（株）OZ Links代表取締役
- ・八尾の古民家を改装、宿泊サービスを提供